

科目名	認知発達特論 I	担当教員	伊藤 一美
科目属性	専門科目 C群	単位数	2単位 (面接 0.5 単位)
<b>【授業の目的・ねらい】</b>			
<b>【授業概要】</b>			
<p>本科目では、認知と発達をキーワードに、認知能力がどのように発達するのかということを理解することをとおして、知的障害を中心とした発達障害のある児童生徒の理解を深め、それぞれの認知の個人差に応じた支援方法について検討できることを目指す。認知過程の基礎である記憶の過程は、子どもたちの教科理解に重要な役割を果たしていることが知られている。そこで、本科目では、記憶の発達過程をとおして、①文章の理解と算出の過程、②文字の習得過程(読み書きの過程)について学び、つまずきに対応した支援方法を検討できる力をつけることを目指す。さらに、教科教育の基本とされる読むこと、書くことの認知能力に焦点をあて、その学習支援のあり方についての研究を深めることを目指したい。</p> <p>学校教育において、子どもたちの生きる力の育成を考えるうえで、学習につまずきを示す子どもの支援は重要な課題である。とくに、発達障害のある子どもたちが示す学習上のつまずきの支援には、根拠にもとづく支援が重要である。根拠に基づく学習支援とは、客観的なアセスメントの上、つまずきに対応した支援のことを意味しているのであり、適切な指導・支援というのは、よりよと指導方法の検討という視点のみではなく、一人ひとり子どもの認知の個人差に応じているかという観点が重要である。そのことを理解した上で、学習支援につながるつまずきの評価方法と、具体的な支援のあり方を研究することを目指す。</p>			
<b>【授業の到達目標】</b>			
この授業の具体的な到達目標は、以下の4つである。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記憶の生涯発達の過程(とくに乳児期・幼児期・児童期を中心に)を理解する</li> <li>2. 文字の習得過程(読むこと書くこと)を理解する</li> <li>3. 読み書きの障害について理解する</li> <li>4. 知的障害を含む発達障害のある子どもたちの学習支援のあり方について研究する</li> </ol>			
<b>【授業計画】</b>			
全 15 回の授業計画は以下のとおりである。			
第 1 回 乳幼児期の記憶 —短期記憶とワーキングメモリ—			
第 2 回 乳幼児期の記憶 —エピソード記憶と意味記憶—			
第 3 回 児童期の記憶 —短期記憶とワーキングメモリ—			
第 4 回 児童期の記憶 —エピソード記憶と意味記憶—			
第 5 回 言語力の発達			
第 6 回 文章理解の過程			
第 7 回 文章産出の過程			
第 8 回 日本語(かな文字、漢字)の特性			
第 9 回 漢字・仮名まじりの読み書きの過程			
第 10 回 読むことにつまずきと発達性 dyslexia			
第 11 回 書くことにつまずきと発達性 dysgraphia			
第 12 回 読むこととワーキングメモリ			
第 13 回 書くこととワーキングメモリ			
第 14 回 読み書きのつまずきの評価・アセスメント			
第 15 回 知的障害を中心とした発達障害のある子どもの読み書きのつまずきの支援			
科目修得試験			
<b>【評価方法】</b>			
「スクーリング評価」(25%)、「レポート評価」(25%)、「科目修得試験」(50%)の割合で総合して評価する。			
<b>【教科書】</b>			
市川伸一(編). (2010)『現代の認知心理学 5 発達と学習』北大路書房.			
太田信夫・多鹿秀継. (2008)『記憶の生涯発達心理学』北大路書房.			
<b>【参考図書】</b>			
海保博之. (2005). 『朝倉心理学講座〈2〉認知心理学』朝倉書店.			

